

第17 警察活動の支え

1 警察職員

(1) 採用試験の状況

ア 警察官の採用

(ア) 警察官の採用

- ◆ 警察官の採用試験は、A区分（大卒等）とB区分（A区分以外）に分かれています。
令和5年度採用試験の実施状況

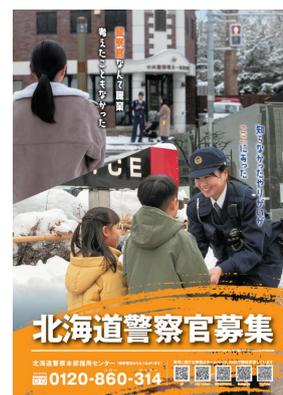
試験	区分		第1次試験受験者数	最終合格者数	競争倍率
第1回	A区分	男性	281	145	1.9
		女性	101	54	1.9
	B区分	男性	390	171	2.3
		女性	132	56	2.4
第2回	A区分	男性	124	35	3.5
		女性	45	14	3.2
	B区分	男性	499	189	2.6
		女性	205	88	2.3

(イ) 令和6年度採用試験の日程

- 第1回～第1次試験 4月28日（日）、第2次試験 6月上旬～6月中旬
- 第2回～第1次試験 9月22日（日）、第2次試験 10月下旬～11月上旬

(ウ) 身体基準

項目	身体基準
視力	両眼とも裸眼視力がおおむね0.6以上、 又は両眼とも矯正視力がおおむね1.0以上
色覚	職務執行に支障がないこと。
その他	胸部疾患及び感染症等の有無、聴力、その他 職務執行に支障がないこと。



【令和6年度募集ポスター】

(エ) 選考による採用

高度な知識及び技能を有する者を幹部として中途採用（サイバー犯罪捜査官など）しているほか、かつて都道府県警察の警察官であった者のうち、結婚、出産、介護等により途中でやむを得ず退職した者を、選考によって再採用しています。

イ その他の職員の採用

北海道警察では、警察官のほかに警察行政職員や技術職員等が働いています。

警察行政職員は、北海道人事委員会が実施する北海道行政職員採用試験の試験区分「警察行政A・B」の合格者から採用します。

また、専門知識・能力を必要とする職種（研究職員、保健師、航空整備士等）については、欠員が生じた場合などに選考を実施し、合格者を採用します。

ウ 問合せ先

詳細については、北海道警察本部採用センター

011-251-0110（内線2696, 2697）

ハロー - サイヨー

0120-860-314 フリーダイヤル

までお問い合わせください。



(2) 採用活動による警察の魅力を伝える取組

北海道警察では、多くの方に警察業務の魅力を伝えるため、WEB説明会やオンラインイベント、職業体験等を開催しているほか、SNSによる情報発信等の活動を行っています。



【1 DAY仕事体験】



【職業体験】

(3) 警察職員の教育訓練

警察職員には、適正かつ妥当に職務を執行するため、円満な良識と確かな判断能力、実務能力が必要とされます。そのため、様々な教育訓練を通じて人格や能力に優れた力強い警察職員の育成を図っています。

ア 警察学校における教育訓練

警察学校は、警察職員の教育訓練を専門的に行う研修機関です。採用時や専門的な知識を醸成させる場合に一定の期間、職場を離れて団体生活を送りながら、法律や実務に関する教育、情操教育等を集中的に行っています。

警察学校への入校は入寮を原則としていますが、育児、介護等の事情により寮生活が困難となっている職員には、通学を認めるなど、個別事情に配慮した入校支援施策も実施しています。

警察学校での授業内容	
法 学	憲法、民法、刑法、刑事訴訟法、警察法、警察官職務執行法等
警察実務	捜査、鑑識、生活安全、地域、交通、情報通信等
体育・術科	柔道、剣道、逮捕術、拳銃、救急法、体育等
職務倫理	訓育、職務倫理等



【警察学校の入校式】



【警察学校の訓練】



【逮捕術の訓練】



【鑑識の授業】

イ 職場等における教育訓練

職場では、現場指揮能力及び職務執行能力を修得、向上させるため、第一線の現場で取り扱う事案を想定したロールプレイング方式の実戦的総合訓練等を行っています。

この訓練は、経験が浅い若手警察官の現場執行力を検証する場合にも活用しています。

また、警察職員としての職務倫理観を高め、道民の視点に立った組織運営や現場警察活動を行うために、ファシリテーション等の効果的な手法を取り入れた小集団討議や部外有識者、卓越した専門的技能を有する警察職員等を講師としたセミナーを開催しています。

このほか、高い捜査指揮能力を備えた上級捜査幹部を育成するための検察庁における特別研修や緊急自動車運転のスペシャリストを養成するための道外研修を行っています。



【実戦的総合訓練】



【教養セミナー】

ウ 術科訓練による執行力の充実強化

警察官は、現場で犯人を取り押さえたり、災害発生時に被災者を救出するために、日頃から柔道、剣道、逮捕術、拳銃射撃等の術科訓練に励み、強じんな体力と旺盛な気力を養っています。また、警察官の訓練成果の検証や一層の技術向上を目的として、年に一度、各種術科大会を全道規模で開催しています。令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことを受け、必要な感染防止対策を徹底した上で、概ね従来どおりの規模で全ての大会を開催しました。

北海道警察の中でも特に術科技能に秀でた者は、北海道の代表選手として全国規模の大会に出場しています。令和5年度は、機動隊に所属する柔道選手が全国警察柔道選手権大会で準優勝し、柔道、剣道選手共に全日本選手権大会等に出場を果たしています。

北海道警察各種術科大会【令和5年度の開催状況】



【北海道警察柔道大会】



【北海道警察剣道大会】



【北海道警察逮捕術大会】



【北海道警察拳銃射撃競技大会】
(各方面単位で実施)

(4) 護身術への取組

ア 護身術訓練指導者チーム（通称^{アセデル}ASEDELチーム）

北海道警察では、道民が犯罪に遭遇したときに役立つ「護身術」を指導するため、柔道、剣道、逮捕術等の術科指導者（インストラクター）で構成する「護身術訓練指導者チーム」を設置しています。

地方公共団体やボランティア団体等からの要請に基づき、チームのインストラクターによる指導が必要と認めた場合、訓練対象者の人数や訓練時間、場所などを考慮してインストラクターを派遣し、日常の業務に支障がない範囲で護身術の指導を行います。

イ 不審者への対処要領

護身術とは、警察官が犯人を制圧・逮捕するために訓練している逮捕術とは違い、自分が暴漢と対決するものではなく、一瞬だけ相手をひるませて

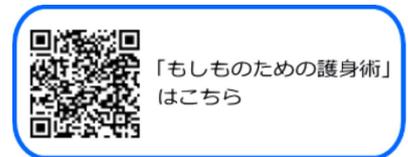
- ① そのすきに大声をあげ
- ② 応援や助けを求め
- ③ その場から逃げて

難を逃れるためのものです。

詳細については、北海道警察ホームページの

「もしものための護身術」

を参考にしてください。



(5) 女性職員の活躍

北海道警察では、女性職員の採用・登用の拡大に取り組んでおり、女性職員の数は、年々増加しています。

女性警察官の活躍の場は、性犯罪被害者の支援等女性の特性を生かした分野のみならず、男性と差異なく、個人の能力等に応じ、様々な分野に広がっています。

また、育児休業後の職場復帰支援、仮眠室等女性専用施設の改善など、女性が働きやすい環境に向けた取組を推進しており、出産や育児等のライフステージを経て、生き生きと活躍する女性職員が増えています。



【女性警察官による防犯教室】

(6) ワークライフバランスの推進

北海道警察では、全ての職員がやりがいや充実感を感じながら働くことができるよう、ワークライフバランスを推進しています。

年次有給休暇の取得促進や毎週水・金曜日と毎月20日を定時退庁日として時間外勤務の削減を図っているほか、育児休業をはじめとした男性職員の育児参加促進など、男女を問わず全ての職員が仕事と育児や介護を両立するための休暇制度等を利用しやすい環境づくりに取り組んでいます。

2 警察活動への協力援助

近年の急激な社会情勢の変化から、多種多様な犯罪・事故が発生しています。犯罪や事故から道民の安全を守るためには、皆様からの協力援助が必要不可欠となります。令和5年中の警察活動に協力援助していただいた方々への表彰は、

- ・犯人検挙等に関して 364人、 48団体
- ・人命救助に関して 18人、 1団体
- ・その他の警察行政に関して 320人、 166団体

となっており、多くの方々に御協力を頂きました。

【令和5年中の犯人検挙等への協力】

		殺人	強盗	性犯罪	放火	窃盗	恐喝	詐欺	ひき逃げ	その他	合計
表彰	個人					4		339	1	20	364
区分	団体							48			48
計						4		387	1	20	412

【令和5年中の人命救助への協力】

		交通事故	水難	火災	山岳	その他	合計
表彰	個人	2	4			12	18
区分	団体					1	1
計		2	4			13	19

3 装備

(1) 機動力の確保(車両、航空機、警備艇等)

広域・スピード化する犯罪、事故、災害等に対して迅速かつ的確に対応するため、パトカー、白バイ、捜査用車両のほか、ヘリコプターや警備艇等の装備を保有して機動力を確保しています。

また、災害現場などでの救助活動に使用する特殊車両のほか、交通死亡事故抑止を目的とした速度違反取締りに使用する交通パトカーの整備を進めるなど、機動力の強化に努めています。



【ヘリコプター】



【警備艇】



【高性能救助車】



【交通パトカー】

(2) 各種装備資機材の整備

機動力を確保するための装備のほか、現場の状況に応じて的確に警察活動を推進するため、災害等救助用資機材、水上バイク、スノーモービル、各種捜査用資機材、受傷事故防止用資機材を整備しています。



【バックホウ】



【水上バイク】

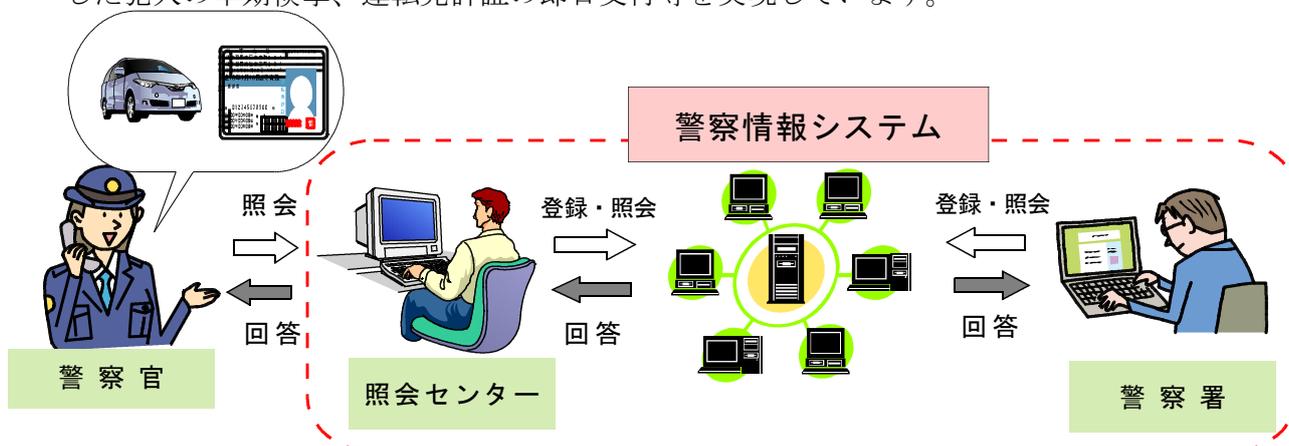


【スノーモービル】

4 情報管理

(1) 警察情報システムの整備

警察本部、警察署等に設置するコンピュータ、サーバ、これらを結ぶネットワーク等から構成される警察情報システムを整備し、犯罪捜査、指掌紋、運転免許等に関する情報を活用した犯人の早期検挙、運転免許証の即日交付等を実現しています。



(2) 情報セキュリティ対策

警察では、犯罪捜査、運転免許等に関する個人情報をはじめとして、多くの機密情報を扱っていることから、情報セキュリティに関する規範の体系である警察情報セキュリティポリシーを策定し、厳格な情報管理に努めています。具体的には、警察内部ネットワークの外部ネットワークからの分離、外部記録媒体の利用制限等により情報流出等を防止するための技術的環境を整備するとともに、警察職員の情報の取扱いに係る規範意識の向上のための取組を推進しています。

(3) 業務継続性の確保

災害発生時においても、警察情報システムを利用して犯罪捜査、運転免許証の交付等の業務を継続できるよう、データのバックアップによる消失の回避、運用・保守要員の確保等の対策を講じています。

(4) ICTの利活用の推進

ホームページ、電子メール、SNS等による地域安全情報の提供、行政手続（申請、届出等）のオンライン化等、行政サービスにおけるICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）の利活用を推進しています。

5 留置施設の管理運営

(1) 留置施設の管理運営

令和6年4月1日現在、北海道警察における留置施設は、全ての警察署に設置されている64施設と警察本部直轄の2施設との合計66施設であり、その収容基準定員は、全道で989人となっています。

北海道警察では、刑事収容施設及び被収容者等の処遇に関する法律に基づき、捜査と留置の分離を徹底しつつ、被留置者の人権に配慮した処遇及び施設の改善を推進し、適正な留置管理業務の運営を徹底しています。

ア 警察本部直轄留置施設の運営

(7) 警察本部留置施設（女性専用）

警察本部に設置され、札幌市内及び近郊の警察署が扱う女性被疑者を留置する施設として運用しています。

留置主任官として女性の警部を置くとともに、看守勤務員には全て女性警察官を配置し、女性の特性に十分配慮した処遇を行っています。

令和5年中は道内の女性被留置者（延べ人員8,480人）中、約60%の5,109人を収容しています。

(4) 警察本部琴似留置場留置施設

札幌市西区八軒1条西3丁目に所在し、札幌市内及び近郊の警察署から主に男性被疑者を収容しています。



【警察本部留置施設】



【琴似留置場留置施設】

イ 女性集中留置施設の運用

女性留置施設は、警察本部留置施設のほか、函館中央警察署留置施設、旭川東警察署留置施設、釧路警察署留置施設、帯広警察署留置施設及び北見警察署留置施設をそれぞれ女性集中留置施設として運用しており、女性警察官を複数配置し適切な処遇を行っています。

ウ 外国人被留置者に対する適切な処遇

外国人被留置者向けに、複数言語の告知書を用意しているほか、被留置者の信仰する宗教を踏まえた食事の提供を行うなど、言語や宗教等の違いに配慮した処遇に努めています。

(2) 留置施設視察委員会の運営状況

平成19年6月の刑事収容施設及び被収容者等の処遇に関する法律の施行に伴い、留置施設の運営状況について透明性を高めるため、部外の第三者からなる機関として警察本部及び方面本部に留置施設視察委員会が設置されました。委員は、弁護士や医師等の合計17人が任命されています（警察本部5人、函館、旭川、釧路、北見方面本部各3人）。

各委員は、留置施設を実際に視察し、被留置者と面接するなどして留置施設の実情を把握した上で、委員会として留置業務管理者（警察署長等）に意見を述べるものとされており、警察本部長及び方面本部長は、委員会からの意見及びこれを受けて北海道警察が講じた措置の概要を公表することとされています。



【留置施設視察委員による視察状況】

(3) 被留置者の収容状況

令和5年中の道内の被留置者の年間延べ人員は7万7,606人で、前年と比べて1万1,417人増加しています。被留置者1人当たりの平均留置日数は約17.6日、1日当たりの道内の平均収容人数は約213人となっています。過去5年間の平均では、1人当たりの平均留置日数が約17.2日、1日当たりの道内の平均収容人数は約199人となっています。



(4) 被留置者の処遇

ア 支給貸与物品及び自弁物品

被留置者に対しては、以下に掲げる物品について支給、貸与し、又は自弁（購入）を許可しています。

(7) 支給物品

- 食事
1日当たり
主食 1,234キロカロリー
副食 998キロカロリー
合計 2,232キロカロリー
を目安として給食
- 湯茶

【朝食】



(イ) 貸与物品

- 寝具（敷き・掛け布団、枕、毛布）
※ 敷き・掛け布団、枕はカバー付き
- その他、被留置者の申出に応じて、
 - ・ 日用品（タオル、石けん等）
 - ・ 衣類（下着を含む。）
 - ・ 筆記具

【夕食】



(ウ) 自弁（購入）を許す物品

- 糧食（弁当）、菓子類、清涼飲料水
- 日用品（タオル、石けん等）
- 衣類
- 便せん、封筒等
- 書籍類（新聞、雑誌等）

【面会・差入れ窓口】



窓口での差入れ可能物品

イ 起居動作及び診療

(7) 運動

留置施設内の運動場において、毎日実施（土・日曜日及び休日を除く。）

(イ) 入浴

留置施設内の浴室において、週 2 回以上実施

(ウ) 調髪

留置施設内の安全な場所において、被留置者が希望した場合に、その自費により実施（留置業務管理者が指定した理髪業者）

(エ) ひげそり

留置施設内の運動場又は指定場所において、週 3 回以上実施

(オ) 健康診断

留置施設内の診療室等において、警察本部長が委嘱した警察医により、月 2 回実施

(カ) 診療

留置施設内の診療室等において、医療上の必要に応じて、警察医又はこれに代わる医師による診療を実施

6 北海道警察情報通信部の活動

北海道警察情報通信部では、様々な情報通信施設や機器の整備・維持管理を行い、第一線の警察活動に必要な情報通信を確保しています。また、犯罪捜査におけるパソコンやスマートフォン等の電子機器からの情報の抽出・可視化や、サイバー事案対策の技術支援等、技術面から警察活動を支えています。



警察情報通信部の
組織・採用に関する情報
はこちら

(1) 警察活動を支える警察情報通信

警察では、独自に整備・維持管理している無線多重回線（マイクロ回線）、電気通信事業者の専用回線、衛星通信回線等の多様な回線により、警察庁から管区警察局、警察本部、方面本部、警察署、交番・駐在所を全国的に結んでいます。これらの回線を基盤として、警察電話、移动通信システム、通信指令システム等の各種情報通信システムを整備し、24時間・365日、警察活動に活用されています。



(2) 機動警察通信隊の活動

災害、事故、事件等が発生した場合、警衛・警護警備を実施する場合又は事件捜査を行う場合において、現場状況の把握、指揮、命令、報告等を行うために通信手段の確保が不可欠となります。警察情報通信部の職員で編成される機動警察通信隊が現場に出動し、現場映像をリアルタイムに警察本部等に伝送するとともに、現場の状況に応じて、臨時の通信施設を設置するなどして、警察活動に必要な通信手段の確保を行っています。



現場映像の伝送

北海道警察本部等



(3) 通信施設業務

いつどこで発生するかわからない事件、事故や災害等に警察が的確に対応できるよう、全国を網羅する様々な通信網が構築され、現場警察官への指揮命令や報告連絡等に使用されています。通信施設課では、これらの通信網が常に最適な状態で使用できるよう、耐災害性、利便性、経済性及び最新技術の活用等多角的な検討を行い整備・維持管理を行っています。

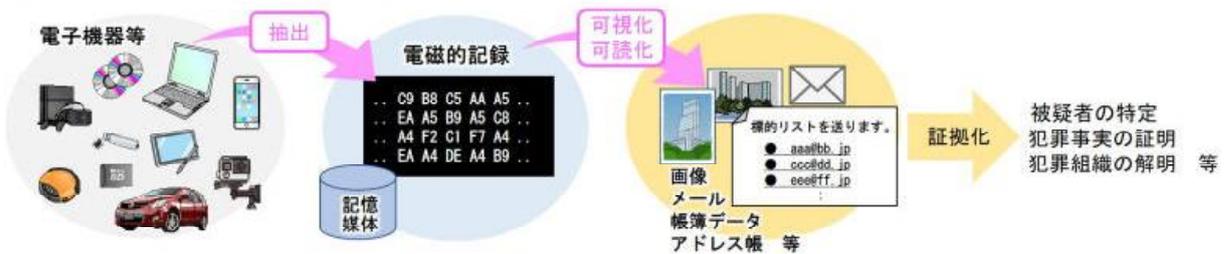


(4) 情報技術解析活動

北海道警察の要請に応じ、捜索・差押え現場での捜査員への技術的な指導や、押収したパソコン、スマートフォン等の電子機器から証拠となる情報の抽出・可視化を行っています。

また、サイバーフォースと呼ばれる技術部隊を設け、北海道警察と連携してサイバー事案の未然防止や被害拡大防止に係る活動を行っています。

デジタル・フォレンジックの概要



※デジタル・フォレンジックとは、犯罪の立証のためのスマートフォンやコンピュータなどの解析技術やその手続き

